



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と  
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と  
ひ  
と  
学  
生  
ぐ  
ツム

第28号

2017年8月8日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

### 夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.7

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、  
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

## SPさんだけで「次の会場準備」



「谷地さん、お願いね。」コーディネーターの中村先生が発したのはその一言だけ。すぐに、リーダーの谷地さんが指示を出します。

「まず、全部、学年ごとに回収します。そのあと、次に使う分をピックアップしましょう」「これはどうしますか」「それはあっちに集めます」的確な指示でさっと次の教室の会場準備が始まりました。

誰に言われなくても気がつけば各学年3人ずつに分かれていました。氏名を読む人、探す人。

分担もしながら、一番手際よくやれる方法を考えて動いていました。

今の大学生って、こんなにアクティブに動けるの？こんなに進んで動けるの？正直思いました。（ここに来てくれるSPさんだからこそ、ここまで動けるのだと思っています。ちまたの大学生の質とは全然違う、そんな人ばかりがここに集まってくれている、と断言できます。）最後、谷地さんが「よし、終わり！2階へ移動！」ほっとした雰囲気流れました。見事な「学生文化」です。彼らは、きっと、現場に出ても、これほど仕事ができるのですから、頼りにされる存在になるだろうな、と思いました。

SPさんの名札はもちろん、参加する子どもの名札もすべて準備、席の場所も指定。「何もここまでやらなくても」と思うSPさんもいるのかもしれませんが。



ここに、中村先生の「強い思い」があり、個を大事にする東浦町の教育があります。自分の名札が準備されていれば「自分が大事にされている」と思うことでしょうか。場所も決まっていて、名前と呼ばれれば、「自分のことを忘れずに大事にしてくれている」と思うことでしょうか。徹底的に個を大事にする教育が、ここにあります。だからこそ、準備も大事なのですね。その大事な準備を、SPさんが一手にやってくれているのです。